

もり かつ のり
森 克徳 展
～しなやかな陶志～

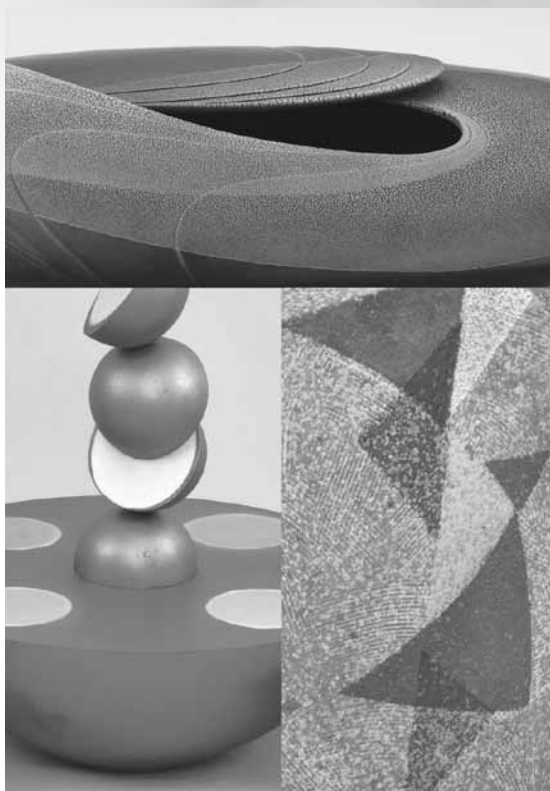
1月26日(土)～3月24日(日)

三州瓦の産地である高浜市で昭和30年(1955)、窯業を営む家に生まれた森氏にとって、瓦工場が立ち並び煙突から黒煙が立ちのぼる風景は故郷の情景であり、幼少期の記憶は創作に対する思想や技術に大きく影響しています。

大学で彫刻を学び、卒業後は高浜市で創作活動を続けてきた森氏の作品は、時代を経るごとに、挑戦的な造形から自然に融合する緩やかな造形へと変化し、釉薬を美しく呈する造形、いぶし銀を柔軟に感じさせる構成、三河土の温もりを活かす彩色が特徴です。それらは、硬質なやきものでありながら、軽やかでしなやかな印象を与えています。

本展では、森氏がこれまでに感じてきたやきものの魅力から、新たな一面を創造していく変遷をご紹介します。この地で培われてきた作品のかずかずをぜひご覧ください。

上:「作品」(部分) 左:「銀の連想」(部分) 右:「砂紋陶器」(部分)▶



休館日 月曜日、火曜日、2月13日(水) *ただし2月11日(月・祝)は開館

観覧時間 午前10時～午後5時(観覧券の販売は午後4時30分まで)

観覧料 高校生以上500円(400円)、中学生以下無料

* ()内は前売り、20人以上の団体料金、または市内在住者(前売りは1月25日(金)まで実施)

* 観覧券は当館のほか刈谷市美術館(前売りのみ)、チケットぴあ、セブン-イレブンでも販売

【Pコード:769-473】(1月25日(金)まで前売り料金、会期中は当日料金)

* 75歳以上の方、各種障害者手帳をお持ちの方ほか、割引あり

■神谷英介氏と森克徳氏による師弟対談

森氏は、中学生のころに初めて見た神谷氏の作品に感銘を受け、陶芸家を志すようになりました。二人の共通点でもある故郷の三河土を用いた作品や、本展の展示作品を中心に対談します。

3月9日(土) 午後2時～4時《1階ホール》

定員: 先着100人(予約不要)

料金: 無料(ただし観覧券が必要)

■森茶会「茶・華・香」

高浜市で受け継がれてきた「いぶし」の技法や「三河土」を用いて森氏がつくり出す茶碗・花器・香合などの作品を鑑賞しながら、一期一会のおもてなしをお楽しみください。

2月23日(土)・24日(日) 午前11時～午後3時

※入場は午後2時30分まで 《1階ホール》

料金: 観覧券+茶会券800円、茶会券のみ500円

協力: 高浜市文化協会

■「森克徳氏によるギャラリートーク」

2月17日(日)、3月16日(土)いずれも午後2時～ / **料金**: 無料(ただし観覧券が必要)

| 関 | 連 | 事 | 業 | 「森克徳作品－用の美」

美しいやきものは、見るだけではなく、使うことで感じる“用の美”があります。森氏の作品を美味しい食事や飲物とともに楽しめるメニューを用意しました。特別な空間で、手と心で器を感じる時間を過ごしてください。

【参加店舗】 レストランOmi(かわら美術館内)、ホームメイドカフェ Kibara(湯山町)、数寄屋カフェ〈古川美術館 分館爲三郎記念館〉(名古屋市千種区)

* 詳しくはかわら美術館ホームページを確認してください。